



文化財愛護  
シンボルマーク

北条町埋蔵文化財報告書27



Hōjō  
鳥取県東伯郡北条町

島苅山遺跡発掘調査報告書 1  
Simakariyama

1998. 1

北条町教育委員会

Hōjō  
鳥取県東伯郡北条町

Simakariyama  
島苅山遺跡発掘調査報告書 1

1998. 1

北条町教育委員会

## 序 文

本町は、鳥取県中部を流れる天神川左岸に位置し、総面積21km<sup>2</sup>の小さい町にもかかわらず、県下有数の遺跡密集地であります。本町の丘陵地帯においては、600件もの古墳が存在しており、また、平野部におきましては、縄文土器・石器が多数出土していることから、当地における生活文化の繁栄がうかがえます。

しかし近年、開発事業が活発に行われる中で、先人の生活の跡である文化財をいかに保護していくかが今後の課題でもあり、私たちの責務であると再認識しているところです。

ここに報告する島刈山遺跡の発掘調査は、県営島地区一般農道整備事業（支線一号）道路工事に伴ない行われたもので、北条町教育委員会が主体となり、鳥取県倉吉地方農林振興局地域整備課をはじめ、関係者と締密な連絡を取り合い調査を実施しました。その結果、多数の遺物を伴った竪穴式住居跡3棟を確認し、この地における当時の生活の一端をうかがい知ることができました。

調査にあたっては、鳥取県教育委員会文化課及び鳥取県埋蔵文化財センターのご指導はもとより地元作業員、その他調査関係者各位には多大なるご理解、ご尽力をいただき深く感謝申し上げる次第でございます。

これを契機といたしまして、本町の生活文化水準向上に資する文化財の保護に一層力を注いでいく所存でありますので、今後とも各位のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

1998（平成10）年1月

北条町教育委員会

教育長 吉 田 俊 夫

## 例 言

1. 本報告書は、平成9年度、県営島地区一般農道（支線一号）工事に伴い、鳥取県倉吉地方農林振興局地域整備課の委託を受けて、北条町教育委員会が主体となって実施した北条町鳥字苅山の、埋蔵文化財発掘調査記録である。

2. 調査体制は以下の通りである。

調査団長 吉田俊夫（北条町教育委員会教育長）

調査指導 山桥雅美（鳥取県埋蔵文化財センター）

調査員 松本達之、宇田川 宏、西村勝義、日置条左エ門

前田明範（以上北条町文化財保護委員）

清水直樹（北条町教育委員会教育課社会教育係主事）

事務担当 清水直樹

調査協力 宮前直美、坂本沙智

3. 本書の執筆、編集は清水が行った。

4. 遺構の実測、図面作成、写真撮影は調査に携わった全員の協力により清水、宮前が、遺物の実測、遺構図、土器の浄書は宮前、坂本が行った。

5. 本書に使用した方位は全て磁北を示す。

6. 図面、写真、出土遺物等は北条町教育委員会が保管している。

## 目 次

序 文

例 言

目 次

第1章 調査に至る経過.....	1
第2章 位置と環境.....	2
第3章 調査の概要.....	3
第4章 まとめ.....	9

## 挿 図 目 次

挿図 1 北条町内遺跡分布図

挿図 2 烏丸山遺跡周辺の地形（1／5000）.....	1
挿図 3 烏丸山遺跡周辺の地形（1／1000）.....	1
挿図 4 烏丸山遺跡全体平面図.....	3
挿図 5 第1堅穴住居跡平断面図.....	4
挿図 6 第2堅穴住居跡平断面図.....	5
挿図 7 第3堅穴住居跡平断面図.....	6
挿図 8 烏丸山遺跡出土遺物.....	8

## 図 版 目 次

図版 1 調査区遠景、調査区近景、第1、2堅穴住居跡

図版 2 第3堅穴住居跡、調査区完掘、烏丸山遺跡出土遺物



- |                  |            |             |
|------------------|------------|-------------|
| A. 島薙山遺跡         | 1. 曲古墳群    | 2. 土下古墳群    |
| 3. やすみ塚（土下213号墳） | 4. 茶臼山古墳群  | 5. 北尾古墳群    |
| 6. 島古墳群          | 7. 北尾遺跡    | 8. 島遺跡      |
| 9. 曲226号墳        | 10. 船渡遺跡   | 11. 米里銅鐸出土地 |
| 12. 米里第一遺跡       | 13. 米里第二遺跡 | 14. 天神川河床遺跡 |
| 15. 宇ノ塚遺跡        | 16. 殿屋敷遺跡  | 17. 馬場遺跡    |
| 18. 用露鼻遺跡        | 19. 長畠遺跡   | 20. 茶臼山要害   |
| 21. 中浜遺跡         | 22. 下神1号墳  | 23. 曲宮ノ前遺跡  |
| 24. 曲第一（岡）遺跡     |            |             |

挿図1 北条町内遺跡分布図

## 第1章 調査に至る経過

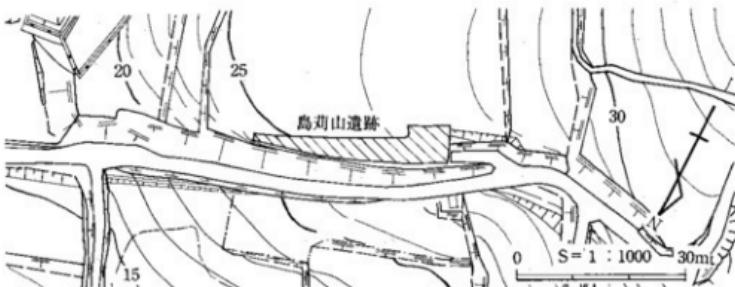
北条町北尾、島地区西部を占める丘陵地帯は、鳥取県の特産として全国的にも有名な二十世紀梨を中心とした果樹園が拓けているが、細い道しかないことから、この地域の農道整備事業である県営島地区一般農道整備事業（支線一号）道路工事を行いたい旨の協議が鳥取県倉吉地方農林振興局地域整備課より北条町教育委員会へあったので、両者、本工事予定地内における埋蔵文化財の取り扱いについて文化財保護の立場から開発工事との調整を図るべく協議を行い、平成8年8月から9月にかけて試掘調査を実施した。

その結果、北条町島字苅山667他において竪穴住居跡が検出されたことから、さらに詳細に記録保存するための発掘調査を行うことにした。

調査期間は、平成9年5月13日から平成10年3月25日までとした。



挿図2 島苅山遺跡周辺の地形 (1/5000)



挿図3 島苅山遺跡周辺の地形 (1/1000)

## 第2章 位置と環境

北条町は、県中部を流れる天神川の左岸に位置し、東は天神川を隔て羽合町、西は大栄町、南は倉吉市と接し、北には日本海が広がっている。現在の北条町になる前は北条郷といわれ、上・中・下の3北条村に分かれていたが、1954年（昭和29年）中・下北条村の合併により1つの町となる。町域は、東西5.6km、南北4.7km、総面積20.99km<sup>2</sup>で北部一北条砂丘、中央部一北条平野、南部一丘陵部から成り、県下3大砂丘の北条砂丘は北部の日本海に面している。代表的な砂丘遺跡に、隣町の羽合町にある長瀬高浜遺跡があるが、本町からは、江北浜北野神社付近の河川工事の際に多数の遺物が出土している。また、丘陵部を中心に古墳密集地帯となっているが、明治以降は桑園化により、現在は梨、柿を栽培するために開墾され遺構が破壊され、今や詳しい古墳の数や様子が分からず状態になっている。

時代を追って当時の人間生活の痕跡をたどってゆくと、まず、縄文時代の遺跡が平野部の低湿地に集中しており、ここに生活の跡がみられる。すでに周知の島遺跡は、1952年の調査で、前期から晩期に属する土器（爪形文や刺突文土器）が大量に出土し、島式として土器編年がなされ県内縄文遺跡の指標として位置づけられる。さらに、1983年（昭和58年）の災害復旧に伴う緊急調査でも、縄文土器・丸木舟の他、貝類の包含層が検出され、その中にヤマトシジミやマガキ・ハマグリなどがあり当時の生活がしげられる。

弥生時代の遺構は、昨年の管峰長谷遺跡で弥生時代終末期の堅穴住居跡が検出され、今回の島丸山遺跡で、町内2例目になる弥生時代後期から古墳時代中期の住居跡が検出されている。他にも島丸山遺跡に近い、北尾・島各遺跡、曲第一（岡）遺跡から弥生土器が出土していることから、その周辺に集落の存在が推定される。また、米里の通称「藏合屋」と呼ばれる畠地の流出した土砂中から弥生土器の壺と製糞櫛の銅鋸が発見されており、例にもれず当地でも弥生の祭祀が行われていたと考えられる。

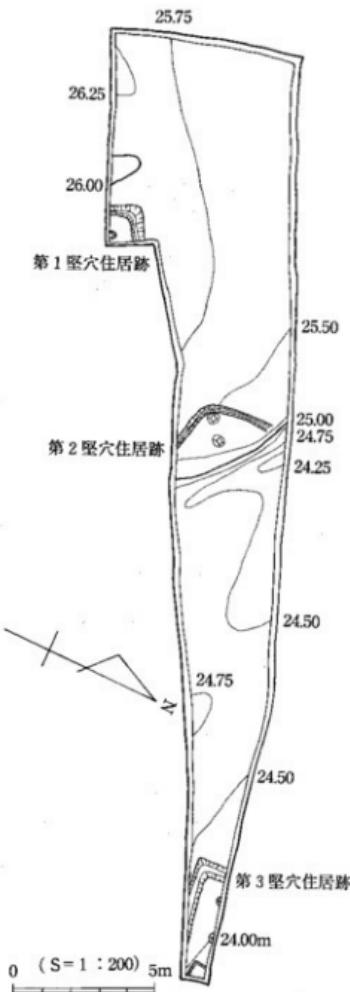
古墳時代に入ると、生活跡としては、昨年の調査で管峰長谷遺跡から古墳時代中期の住居跡3棟が検出され、また蜘蛛ヶ家山北麓の丘陵裾部緩斜面に位置する曲第1（岡）遺跡からは、後期の住居跡が検出されている。

今回調査した島丸山遺跡は、八幡山の緩傾斜地に位置し、県営島地区一般農道整備事業（支線一号）道路工事に伴い発掘調査を実施したもので、弥生時代後期から古墳時代後期にかけての住居跡を3棟検出した。

今後の各種開発事業に伴って、多くの埋蔵文化財発掘の必要性が出てくると思われるが、町内の詳しい歴史的環境の解明はこれからであると考えられる。

### 第3章 調査の概要

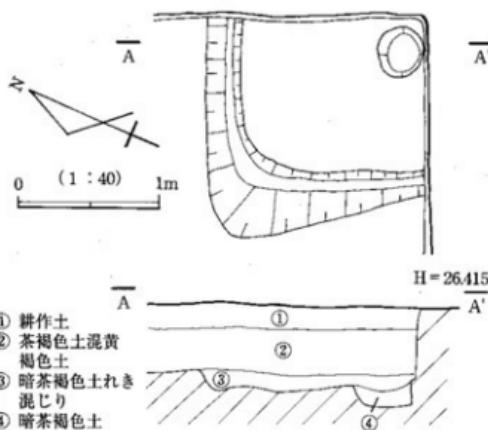
調査地は標高24~26mを測る舌状丘陵地稜線上平坦面に位置し、現在は果樹園として土地利用されている。調査面積は140m<sup>2</sup>で、この調査区域内から弥生時代終末期の竪穴住居跡1棟と古墳時代中期の竪穴住居跡2棟を検出した。



挿図4 島苅山遺跡全体平面図

### 第1竪穴住居跡（挿図5）

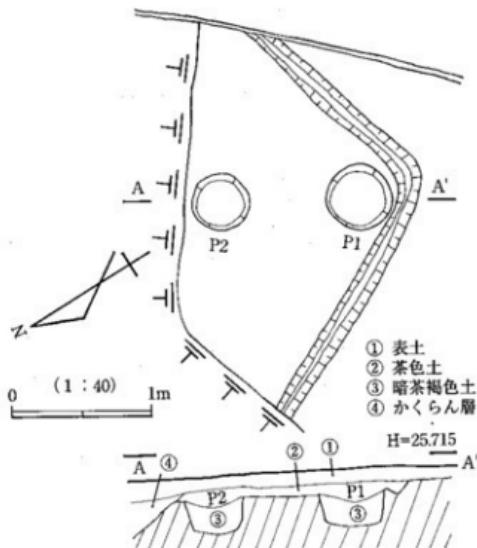
- 位 置** 標高26mの調査区南端に位置し、床面の平均標高は25.90mを測る。
- 形 態** 調査区の関係から第1竪穴住居跡の北西端のみの確認しかできなかった。西側及び北側の側壁、その側壁下を巡る側溝、そして床面である。側壁、側溝の形態から平面形は方形と推定される。壁高は、地山上面が耕作により削平されおり最高でも12cmしか残っていない。検出した床面は張り床が施されて平坦になっており長辺1.4m、短辺1.2m、床面積1.68m<sup>2</sup>である。
- 側 溝** 側溝は、側壁下を巡り、幅3~12cm、深さ3~5cm、断面U字形を呈す。
- 柱 穴** 柱穴は、床面から1本のみ検出された。検出位置から主柱穴と考えられ、その規模は(36×34-13)を測る。
- 遺 物** 床面から弥生土器壺1、2が出土した。
- 時 期** 床面からの出土遺物1、2より弥生時代後期後半（青木Ⅲ新期）と考えられる。



挿図5 第1竪穴住居跡平面図

## 第2竪穴住居跡（挿図6）

- 位 置 第1竪穴住居跡から東に6mの距離をおいて調査区の中央に位置する。床面の平均標高は25.40mを測る。
- 形 態 調査区の関係と東側床面が流出しているため全形は確認できなかったが、遺存する側溝から平面形は方形と推定される。第1竪穴住居跡と同じく地山上面が削平されており、壁高は最高で南壁の10cmである。検出した床面はほぼ平坦で長辺2.1m、短辺1.6m、床面積3.36m<sup>2</sup>である。
- 側 溝 南側と西側に遺存し、幅4~7cm、深さ3~6cmを測り、断面U字形を呈す。
- 柱 穴 柱穴は床面から2本検出された。このうちP1は、その出土位置から主柱穴、と考えられるが、P2については現況では性格等は不明である。規模は、P1(47×45-23)、P2(42×40-22)を測る。
- 遺 物 埋土中や床面から土師器甕3をはじめ土師器片95点、須恵器片2点が出土している。
- 時 期 第3竪穴住居跡の埋土の土質との比較、また埋土中及び床面から検出された遺物の内容から古墳時代後期と考えられる。



挿図6 第2竪穴住居跡平面図

### 第3竪穴住居跡（挿図7）

**位置** 第2竪穴住居跡から15mの距離をおいて調査区の東端に位置する。床面の平均標高は24.20mを測る。

**形態** 調査区の関係から南西端のみの確認しかできなかつたが、遺存する側壁、側溝の形態から平面形は方形と推定される。壁高は第1、第2竪穴住居跡同様、地山上面が耕作により削平されており最高で14cmである。検出した床面は若干の凸凹があり長辺3.9m、短辺1.1m、床面積4.29m<sup>2</sup>である。

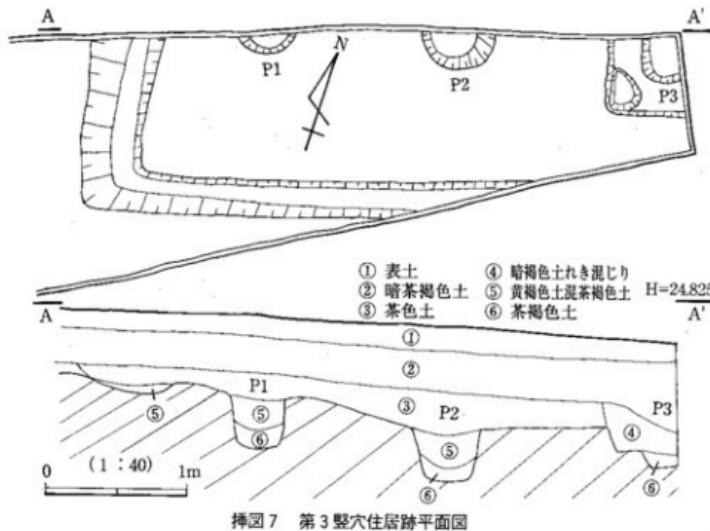
また、検出した住居跡の東側には第3竪穴住居跡築造の後世につくられた遺構を確認したが、その性格等は不明である。

**側溝** 南側と西側に遺存し、幅20~40cm、深さ5~9cmを測り、断面U字形を呈す。

**柱穴** 柱穴は床面から3本検出された。いずれも主柱穴に相当するものと考えられ、南側側壁と平行に並ぶ。調査区外にまたがつて検出されたため規模は明確ではないがP1(40×40-52)、P2(45×52-50)、P3(45×50-35)と推定される。柱穴間距離は、P1~P2で90cm、P2~P3で106cmである。

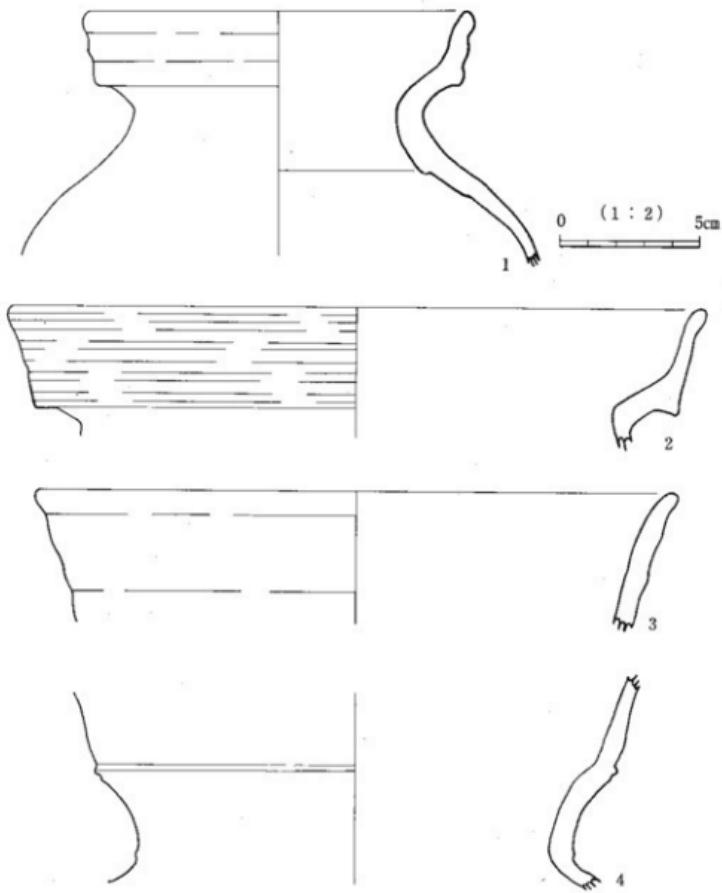
**遺物** 床面から須恵器鶴4をはじめとして土師器片215点、須恵器片31点が出土している。

**時期** 床面からの出土遺物4から古墳時代後期のものと推定される。



出土遺物一覧表

遺 物 番 号	名 称	出 土 場 所	挿 図	図 版	法 量	時 代	形 態	手 法	焼 成	色 調	胎 土
1	土師器甕	G 1 住居跡	8	2	復口径 13.8cm	弥生 後期	口縁部は厚めでやや外反り気味に外傾し、端部は厚く丸い。長めの頸部はしっかりしておらず体部途中で薄くなる。	口縁部外面は擬凹線を施す。頸部から体部にかけての外面、口縁部から頸部にかけての内面はナデ。体部内面は、右方向へのケズリが入る。	良好	淡茶 褐色土	1~3 mmの石 粒含む
2	土師器甕	G 1 住居跡	8	2	復口径 25cm	弥生 後期 後半	口縁部は厚めで外傾で端部は厚く丸い。頸部は厚くなると思われる。	口縁部外面は擬凹線を施す。口縁部内面及び頸部内外面はナデ。	良好	淡黄 茶色	1~3 mmの石 粒含む
3	土師器甕	G 2 住居跡	8	2	復口径 23cm		口縁端部は外傾する。	口縁部外面は波状文を施す。	良好	淡茶 色	1~3 mmの石 粒含む
4	須恵器、甕	G 3 住居跡	8	2		古墳 後期	頸部のみ検出。頸部中央は厚い。	内外面ナデ。	良好	青灰色	1~2 mmの石 粒含む



挿図 8 島苅山遺跡出土遺物

## 第4章 まとめ

今回調査を行った島苅山遺跡は、北尾八幡宮が居を構える通称八幡山の、標高24~26mを測る舌状丘陵地稜線上平坦面に位置する遺跡群で、西側には25基を数える北尾古墳群、その下の平野部には縄文時代から弥生時代にかけての遺物包含層が見られる。本遺跡の現況は、柿畠とその畠に属する作業道となっているため地山まで削平を受けていた。

平成8年度の試掘調査で、2棟の竪穴住居跡が確認された為の今回の調査では、新たに1棟の竪穴住居跡が検出され、当遺跡の調査区内には計3棟の竪穴住居跡が存在していたことがわかった。しかしながら、道路工事予定地内という限られた範囲での調査となつたため、確認された竪穴住居跡3棟すべてにおいて全形を確認するに至らなかつた。これらについて見てみると、第1竪穴住居跡の平面形は方形を呈しており、床面から弥生時代後期の土器細片を検出した。弥生時代における県内の竪穴住居跡の例を見てみると、時間を経るにしたがって平面形は円形から隅丸方形、多色形へと変遷し、床面中央に特殊ピットをもつ例が多い。これまでの町内の例を見ても曲管峰長谷遺跡で検出された弥生時代後期の竪穴住居跡も上の例にもれず、多角形、床面中央に特殊ピットを呈する。第2、第3竪穴住居跡の平面形も第1竪穴住居跡と同じく方形を呈するが、床面からの出土遺物、土層分析から古墳時代後期のものだと考えられる。以上のことから島苅山遺跡が所在する舌状丘陵地稜線上平坦面では、弥生時代後期から古墳時代後期という長い期間にわたって人々の生活が営まれてきたことがうかがえ、平野部ではなく丘陵上平坦面や斜面部の、いわば不便な立地条件である山上に暮しを求めなければならないという争乱期の社会情勢、またそれを考慮したうえで、人々が生活を営むに適した地理条件を備えた地であったことがみてとれる。

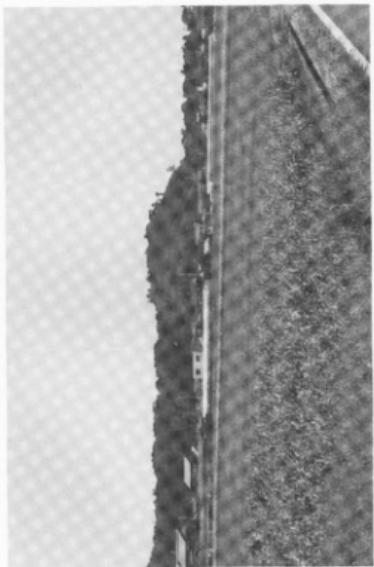
今回の調査は、北尾地区において初めて当時の生活の痕跡を確認したものであったが、諸々の制約により、全容をつかむにはほど遠いという感じがある。しかしながら、成果があったのも事実で、当地域の弥生時代から古墳時代にかけての人々の生活の一端をうかがうことができた。これからも山野の開発に伴い、発掘調査を行っていくうえで、北条町と隣接する大栄町や倉吉市との調査結果を生かしながら本町における古代人の生活・文化が一層解明されればと願ってやまない。最後に、調査に協力していただいた方々、鳥取県教育委員会文化課、鳥取県埋蔵文化財センターをはじめご指導してくださった方々に心から感謝して結びとする。

## 報告書抄録

ふりがな	しまかりやまいせきはつくつちょうさほうこくしょ						
書名	鳥苅山遺跡発掘調査報告書1						
副書名							
卷次	1						
シリーズ名	北条町埋蔵文化財報告書						
シリーズ番号	27						
編著者名	清水直樹						
編集機関	北条町教育委員会						
所在地	〒689-21 鳥取県東伯郡北条町土下112 TEL 0858-36-3111						
発行年月日	西暦1998年1月30日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 度分秒	東経 度分秒	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
鳥苅山遺跡	鳥取県東伯郡 北条町鳥字 苅山	31366	35° 28' 35"	133° 48' 51"	1997 06 ~1997 07	140.00	県営島地区一般農道整備事業に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
鳥苅山遺跡	住居跡	弥生時代 後期後半 ~古墳時代後期	竪穴住居跡3棟	弥生土器片 土師器片 須恵器片			

# 図 版

插図 1



調査区遠景（東から）



調査区近景（西から）



第1竪穴住居跡（西から）



第2竪穴住居跡（北西から）

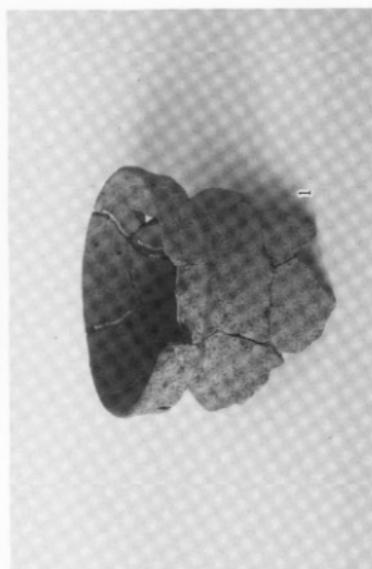
挿図 2



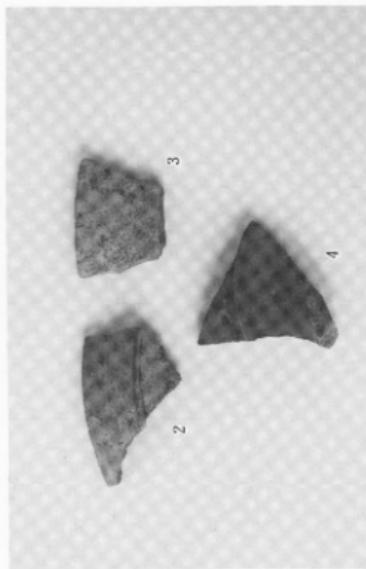
第3堅穴住居跡（西から）



調査区完成（西から）



鳥丸山遺跡出土遺物



鳥丸山遺跡出土遺物

1998年1月印刷  
1998年1月発行

北条町埋蔵文化財報告書27

## 島苅山遺跡発掘調査報告書 1

編集 烏取県東伯郡北条町土下112  
発行 北条町教育委員会  
印刷 勝美印刷株式会社  
製本 烏取県東伯郡羽合町長瀬